

特別基準の試験方法  
水道用アンスラサイト

平成26年7月28日制定

項目	試験方法	摘要
試験基準	水道用アンスラサイト (JWWA A 103-2) による。	
試験範囲	<p>定期工場調査における品質試験の試験範囲を次に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 密度</li> <li>2. 摩滅率</li> <li>3. 塩酸可溶率</li> <li>4. 浸出性</li> <li>5. 外観及び寸法</li> <li>6. 表示</li> </ol> <p>1.～3.及び5.について、被調査工場の設備を用いて、審査員が立会のもと試験を実施する。ただし、被調査工場にて試験が実施できない場合は、事前にセンターと協議する。</p> <p>4.について、センターが下請負契約を行った委託試験所にて試験を実施する。</p> <p>6.について、認証品の表示内容を確認する。</p>	

項 目	試 験 方 法	摘 要
サンプリング	<p><b>サンプルの選定</b></p> <p>立会を実施する品質（物性、浸出性）の試験、外観及び寸法に用いるサンプルは、センターが調査を実施する前に被調査工場と協議し、任意に選定する。</p> <p><b>サンプリング</b></p> <p>審査員は、試験に必要な量をサンプリングし、産地、製造者、採取年月日、その他必要事項を確認する。</p> <p>品質の試験用サンプル：約2.5kg  浸出性試験用サンプル：約1.5kg（風乾試料625g）</p> <p>サンプルは、アンスラサイト10m<sup>3</sup>ごとに約2kgを集める。集めたサンプルはよく混和した後、次のa）又はb）によって縮分採取する。ただし、少量の場合には、縮分回数及びサンプルは約4kgになるように調整する。</p> <p>a) <b>試料分取器法</b> 集めたサンプルをよく混和した後、試料分取器に入れてサンプルを2分割しその一方を残す。残したサンプルについてこの操作を繰り返し、必要量を採取する。</p> <p>b) <b>四分法</b> 集めたサンプルをよく混和し、これを円すい形に積み上げた後、適当な厚さ</p>	立会

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p>をもつ円盤状に押し広げる。次に、互いに直角な2本の直線でこれを四分し、その対頂角の2部分を除く。残りの2部分を再びよく混和して円すい形に積み上げ、必要量のサンプルを得るため上記操作を繰り返す。</p> <p><b>サンプルの乾燥</b></p> <p>サンプルの乾燥は、次による。</p> <p>a) <b>風乾試料</b> サンプル約1.5kgを清浄な皿に薄く広げ、自然乾燥又は扇風機を用いて緩やかに送風して、サンプルを指先でつまんで紙の上に落としたとき四方に飛び散る状態になるまで乾燥する。</p> <p>この風乾試料は、浸出性試験及び外観に用いる。</p> <p>b) <b>乾燥試料</b> サンプル約700gを清浄な皿に入れ、表面を平らにした後さじなどで波目をつける。恒温乾燥器を用いて<math>105 \pm 5</math>℃で約3時間乾燥させ、デシケーター中で室温まで放冷して保存する。</p> <p>この乾燥試料は、物性試験の摩滅率及び寸法のふるい分け試験に用いる。</p> <p>c) <b>洗浄乾燥試料</b> 試料約300gに精製水を注ぎ、傾斜法によってきょう雑物及び微細物</p>	

項 目	試 験 方 法	摘 要
密 度	<p>質を洗浄水が清澄になるまで除去する。その後、サンプルを清浄な皿に入れ、表面を平らにした後、さじなどで波目をつける。恒温乾燥器を用いて<math>105 \pm 5^\circ\text{C}</math>で約3時間乾燥させ、デシケーター中で室温まで放冷して保存する。</p> <p>この洗浄乾燥試料は、物性試験の密度、塩酸可溶率に用いる。</p> <p>なお、認証取得者は、サンプルの乾燥について、事前に行うことができる。</p> <p>アンスラサイトの密度は、ゲーリュサック形比重瓶を用いて求める。</p> <p>器具及び脱気精製水</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はかり 0.001g まではかることができるもの。</li> <li>2. 比重瓶 JIS R 3503:2007の付図59のゲーリュサック形比重瓶で、呼び容量50mLのもの</li> <li>3. 温度計 最小目盛りが<math>0.5^\circ\text{C}</math>又は<math>0.1^\circ\text{C}</math>のもの</li> <li>4. 水浴 器具内に入れた水を煮沸できるもの。</li> <li>5. 脱気精製水 JIS K 0050の7.1 a) (水)に規定するもので、かつ、電気伝</li> </ol>	

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p data-bbox="327 186 731 253">導率 <math>2 \mu\text{S}/\text{cm}</math> 以下の水を煮沸又は減圧によって十分に脱気したもの。</p> <p data-bbox="282 311 370 336"><b>試験方法</b></p> <ol data-bbox="308 353 731 1304" style="list-style-type: none"> <li>1. 比重瓶を洗浄乾燥後、その質量 (<math>m_1 \text{ g}</math>) をはかる。</li> <li>2. 次に、脱気精製水の水温 (<math>t_1 \text{ }^\circ\text{C}</math>) をはかった後、比重瓶に脱気精製水を満たし、比重瓶についた水滴を清潔な布等で完全にぬぐいさり、比重瓶の全質量 (<math>m_2 \text{ g}</math>) をはかる。</li> <li>3. 洗浄乾燥試料約 <math>20\text{g}</math> (<math>\text{m}^3 \text{ g}</math>) を <math>0.001\text{g}</math> のけたまで正確にはかり採り、比重瓶に入れ、脱気精製水を加えてその全量が比重瓶の容量の <math>1/2 \sim 3/5</math> になるようにする。</li> <li>4. 次に、比重瓶を水浴中で30分間静かに煮沸する。このとき、気泡を抜くため、10分ごとに比重瓶を静かに振る。</li> <li>5. 煮沸後、比重瓶を流水中に浸し、常温になるまで冷却する。</li> <li>6. その後、比重瓶に脱気精製水を満たし、室温の水槽中に比重瓶を首部まで浸し、1時間以上放置する。</li> <li>7. 1時間後に水槽中の水温 (<math>t_2 \text{ }^\circ\text{C}</math>) をはかり、比重瓶を水槽から取り出す。</li> <li>8. 比重瓶の外表面を洗い、付着した水滴を</li> </ol>	<p data-bbox="754 353 798 378">立会</p> <p data-bbox="754 438 798 463">立会</p> <p data-bbox="754 649 798 674">立会</p> <p data-bbox="754 860 798 885">立会</p> <p data-bbox="754 988 798 1013">立会</p> <p data-bbox="754 1073 798 1097">立会</p> <p data-bbox="754 1201 798 1225">立会</p> <p data-bbox="754 1285 798 1310">立会</p>

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p>清潔な布等で完全にぬぐいさり，比重瓶の全質量（<math>m_4</math> g）をはかる。</p> <p>なお，乾燥試料を比重瓶に入れるときには，その微量をも失わないように注意する。また，水槽水の水温 <math>t_1</math> °C と <math>t_2</math> °C は近い値であることが望ましい。</p> <p>9. 計算</p> <p>1.～8.で求めた値を（1）式に代入して，水温 <math>t_2</math> °C における乾燥試料の密度 <math>\rho_1</math> を算出する。次に，（2）式によって，水温23°Cの水に対する密度 <math>\rho_2</math> (<math>t_2</math>°C /23°C) の値に換算する。</p> $\rho_1(\text{g/cm}^3) = \frac{m_3 \times d_2}{m_1 + m_3 - m_4 + d_2/d_1(m_2 - m_1)} \quad \dots (1)$ <p>アンラサイトの密度 <math>\rho_2(\text{g/cm}^3) = \rho_1 \times K \quad \dots (2)</math></p> <p><math>m_1</math> : 乾燥した比重瓶の質量 (g)</p> <p><math>m_2</math> : 水温 <math>t_1</math>°C の脱気精製水を満たした比重瓶の全質量 (g)</p> <p><math>m_3</math> : 乾燥試料の質量 (g)</p> <p><math>m_4</math> : 水温 <math>t_1</math>°C の脱気精製水と乾燥試料とを満たした比重瓶の全質量 (g)</p> <p><math>t_1</math> : 脱気精製水の水温 (°C)</p>	立会

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p><math>t_2</math> : 水槽中の水温 (°C)</p> <p><math>d_1</math> : <math>t_1</math>における脱気精製水の密度</p> <p><math>d_2</math> : <math>t_2</math>における脱気精製水 (水槽中の水) の密度</p> <p><math>\rho_1</math> : 水温 <math>t_2</math>°Cの水に対する乾燥試料の密度 (<math>\text{g}/\text{cm}^3</math>)</p> <p><math>\rho_2</math> : 水温23°Cの水に対するアンスラサイトの密度 (<math>\text{g}/\text{cm}^3</math>)</p> <p>K : 補正係数 (水温 <math>t_2</math>°Cにおける水の密度を23°Cの水の密度で除した値)</p>	

項 目	試 験 方 法		摘 要		
	表1 温度4～30℃における水の密度及び 補正係数				
	温度℃	水の密度		補正係数K	
	4	0.99997		1.0024	
	5	0.99996		1.0024	
	6	0.99994		1.0024	
	7	0.99990		1.0024	
	8	0.99985		1.0023	
	9	0.99978		1.0022	
	10	0.99970		1.0022	
	11	0.99961		1.0021	
	12	0.99949		1.0020	
	13	0.99938		1.0018	
	14	0.99924		1.0017	
	15	0.99910		1.0016	
	16	0.99894		1.0014	
	17	0.99877		1.0012	
	18	0.99860		1.0011	
	19	0.99841		1.0009	
	20	0.99820		1.0007	
	21	0.99799		1.0005	
	22	0.99777		1.0002	
	23	0.99754		1.0000	
	24	0.99730		0.9998	
	25	0.99704		0.9995	
	26	0.99678		0.9992	
	27	0.99651		0.9990	
	28	0.99623		0.9987	
	29	0.99594		0.9984	
	30	0.99565		0.9981	
	摩 減 率	判定 密度は、1.40～1.69g/cm <sup>3</sup> の範囲であること。  摩減率は、鋼球を入れた筒中でアンスラサ		立会	



項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p>イトを振り、破碎する割合から求める。</p> <p>なお、アンスラサイトは破碎しやすいので取扱いに注意する。</p> <p><b>器具</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はかり 0.001g まではかることができるもの。</li> <li>2. 筒 密閉できるふたのついた黄銅製又はステンレス製</li> <li>3. 鋼球 JIS B 1501:2009の表1の呼び直径6.5mm</li> <li>4. ふるい JIS Z 8801-1:2006の附表2の公称目開き0.300mmのもの</li> </ol> <p><b>試験方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乾燥試料約100gをふるいでふるい分ける。</li> <li>2. ふるい上に残留した試料から約50g (a g)を0.01gのけたまで正確にはかり採り、筒に入れる。</li> <li>3. これに鋼球5個を加え密閉する。</li> <li>4. 次に、手振りによって1分間150～200回の割合で、振り幅約15cmで上下に3分間激しく振る。又は洗浄濁度で使用する振とう機を用いて、振とう幅40mm、振とう速度280回/分で3分間振とうする。</li> </ol>	<p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p>

項 目	試 験 方 法	摘 要
塩酸可溶率	<p>5. さらに再びふるいでふるい分け、ふるい上に残留した試料の質量 (b g) を求める。</p> <p>なお、筒を振る強度が途中で低下すると誤差が大きくなる。誤差を小さくするためには、筒を振る途中で休憩をはさんでもよいが、一定の強度で合計3分間筒をふること。</p> <p>6. 計算 摩滅率 (%) は、1.~5. で求めた試料の質量から、次式によって算出する。</p> $\text{摩滅率}(\%) = \frac{a-b}{a} \times 100$	<p>立会</p> <p>立会</p>
	<p><b>判定</b></p> <p>摩滅率は、3.0% 以下であること。</p> <p>塩酸可溶率は、アンスラサイトを <math>38 \pm 2^\circ\text{C}</math> の塩酸 (1 + 1) 中に1時間浸せきし、酸によって減少した割合から求める。</p> <p><b>器具</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はかり 0.001g まではかることができるもの。</li> <li>2. 恒温乾燥器 排気口があるもので <math>105 \pm 5^\circ\text{C}</math> の温度範囲に調節できるもの。</li> </ol>	

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p>3. 恒温水槽 <math>38 \pm 2^\circ\text{C}</math> に調節できるもの。</p> <p>4. デシケーター JIS R 3503に規定する硬質のもの、又はこれと同等以上の品質のものを用い、乾燥剤としてシリカゲルを使用する。</p> <p>5. ビーカー JIS R 3503に規定する硬質のもの、又はこれと同等以上の品質のものを用い、呼び容量200mlのもの。</p>	
	<p><b>試験方法</b></p>	
	<p>1. 洗浄乾燥試料約10g (a g) を0.001gのけたまで正確に質量既知のビーカー200mLにはかり採る。</p>	立会
	<p>2. これにあらかじめ<math>38 \pm 2^\circ\text{C}</math>に加温した塩酸(1+1)50mLを加えて恒温水槽中で1時間静置する。</p>	立会
	<p>3. 次に、試料が流出しないように注意しながら塩酸を捨て、初めに水道水で洗い、その後、精製水で洗浄水が中性になるまで(pH試験紙で確かめる)傾斜法によって洗浄する。</p>	立会
	<p>4. 残った洗浄水を捨て<math>105 \pm 5^\circ\text{C}</math>で約3時間乾燥し、デシケーター中で放冷した後、残留した試料の質量(b g)を求める。</p>	立会
	<p>5. 計算 塩酸可溶率(%)は、1.~4.で</p>	立会

項 目	試 験 方 法	摘 要
<p>浸出性試験</p>	<p>求めた試料の質量から、次式によって算出する。</p> $\text{塩酸可溶率(\%)} = \frac{a-b}{a} \times 100$ <p>判定 塩酸可溶率は、6.0% 以下であること。</p> <p>試験方法 浸出性試験は、JWWA A 103により浸出操作を行い、JWWA Z 108及びJWWA Z 110により評価項目を分析し、評価する。</p> <p>評価項目 味 臭気 色度 濁度 鉄及びその化合物 マンガン及びその化合物</p> <p>判定 委託試験所にて試験を実施した成績書が、技術基準省令第1条第17号 別表第2に基づく規制基準に適合していることを、センターが確認する。</p>	<p>立会</p>

項 目	試 験 方 法	摘 要
外 観	<p>外観は、アンスラサイトの形状及びアンスラサイトに混在するきょう雑物等を目視，観察器具等で観察して，その良否を確認する。</p> <p><b>器具</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観察器具 アンスラサイトを観察できるルーペ，低倍率の顕微鏡等。</li> <li>2. ガラス器具 JIS R 3503に規定する硬質のもの，又はこれと同等以上の品質のもの</li> <li>3. 精製水 JIS K 0050の7.1 a) (水) に規定するもので，かつ，電気伝導率 <math>2 \mu\text{S}/\text{cm}</math> 以下の水。</li> </ol> <p><b>試験方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 風乾試料約10gを清浄な白紙の上に採り，目視又は観察器具を用いて，アンスラサイトの色相及び微粉，細長，扁平，うろこ状のもの多寡等を判別する。</li> <li>2. また，碎石，泥炭質等のきょう雑物の有無についても観察する。なお，碎石，泥炭質等のきょう雑物については，風乾試料5g～10gを500mlのピーカー又は平底磁皿に入れ，適量の精製水を加えて軽く攪拌し，浮上するものの有無と沈んだものの中の碎石などの有無を，観察器具を用いて調べる。また，泥炭質と思わ</li> </ol>	<p>立会</p> <p>立会</p>

項 目	試 験 方 法	摘 要																		
寸法(ふるい分け試験)	<p data-bbox="329 192 737 259">れる粒子を指先でこすり、崩れやすいか否かを調べる。</p> <p data-bbox="288 323 333 346"><b>判定</b></p> <p data-bbox="288 361 737 428">微粉、扁平、うろこ状又は碎石、泥炭等のきょう雑物の含有が少ないこと。</p> <p data-bbox="288 486 737 553">ふるい分け試験は、アンスラサイトの有効径、均等係数、最大径及び最小径を求める。</p> <p data-bbox="288 617 333 640"><b>器具</b></p> <ol data-bbox="312 655 737 1059" style="list-style-type: none"> <li>はかり 0.001g まではかることができるもの。</li> <li>ふるい JIS Z 8801-1:2006 の直径 200mm の金属製網ふるいで、ふた及び受け皿をもつもの。</li> <li>ふるい振とう機 原則として、ロータップ形のもの。</li> <li>ふるいの目開きは 表2 による。また、ふるい目開きは、アンスラサイトの粒径で適宜使い分ける。</li> </ol> <p data-bbox="412 1109 613 1132" style="text-align: center;">表2 ふるい目開き</p> <p data-bbox="644 1138 737 1161" style="text-align: right;">単位 mm</p> <table border="1" data-bbox="288 1176 737 1307"> <tbody> <tr> <td>2.00</td> <td>1.70</td> <td>1.40</td> <td>1.18</td> <td>1.00</td> <td>0.850</td> </tr> <tr> <td>0.710</td> <td>0.600</td> <td>0.500</td> <td>0.425</td> <td>0.355</td> <td>0.300</td> </tr> <tr> <td>0.250</td> <td>0.212</td> <td>0.180</td> <td>0.150</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	2.00	1.70	1.40	1.18	1.00	0.850	0.710	0.600	0.500	0.425	0.355	0.300	0.250	0.212	0.180	0.150	—	—	立会
2.00	1.70	1.40	1.18	1.00	0.850															
0.710	0.600	0.500	0.425	0.355	0.300															
0.250	0.212	0.180	0.150	—	—															

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p><b>試験方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乾燥試料約200gを0.1gのけたまではかり、ふるいに移す (m g)。</li> <li>2. 次に、ふるい振とう機又は人力によって、ふるいに上下動及び水平動を与え、試料が絶えずふるい面を均等に運動するようにする。この操作については、ふるい振とう機による場合は5分間行い、人力による場合には、各ふるいごとに約5分間振とうを行う。</li> <li>3. ふるい分けが終わった後、各ふるいに残留した試料の質量 (<math>m_0 \sim m_n</math> g) を0.1gのけたまではかり、記録する。また、ふるいの目に詰まった砂粒は、ふるいの目を傷めないように注意しながら押し戻し、ふるいに留まった量とみなす。</li> <li>4. このふるい分けについては、同一試料につき通常1回以上行う。</li> <li>5. 各ふるいの残留質量によって累積通過質量及び累積通過質量百分率 (%) を算出する。</li> <li>6. 乾燥試料200gとふるい残留質量合計との差は、各ふるいに留まる残留質量に比例配分して補正する。差が1g以上の場合は、再度ふるい分け試験を行う。</li> </ol> <p>なお、ロータップ形以外の振とう機を使用する場合には、5分間振とうを行</p>	<p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p>

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p>い，更にふるいごとに人力によって1分間振とうする。</p> <p>7. 各ふるいの残留質量からそれぞれの累積通過質量及び累積通過質量百分率(%)の算出の一例を，次の式及び表3に示す。</p> $m = m_0 + m_1 + m_2 + \cdots + m_n$ $a_0 = 0$ $a_1 = m_0 = m_0 + a_0$ $a_2 = m_0 + m_1 = m_1 + a_1$ $a_3 = m_0 + m_1 + m_2 = m_2 + a_2$ <p style="text-align: center;">. . .</p> $a_n = m_0 + m_1 + \cdots + m_{n-1} = m_{n-1} + a_{n-1}$ $a_n + m_n = m$ $b_0 = a_{0-1} / m \times 100 = 0$ $b_1 = a_1 / m \times 100$ $b_2 = a_2 / m \times 100$ <p style="text-align: center;">. . .</p> $b_n = a_n / m \times 100$ $b_n = a_n / m \times 100 = 100$ <p>m : 各ふるいの残留質量の合計値 (g)</p>	立会



項 目	試 験 方 法	摘 要
	$m_0 \sim m_n$ : 各ふるいの残留質量 (g) $a_0 \sim a_n$ : 各ふるいの累積通過質量 (g) $b_0 \sim b_n$ : 各ふるいの累積通過質量百分率 (%)	
	<p>8. 粒度加積曲線の作成 対数確率紙の横軸にふるい目開きをとり、縦軸に累積通過質量百分率 (%) をとって作図する。これに7.で求めた、それぞれの値をプロットし、これらの点を直線で結んだものを粒度加積曲線とする。</p>	立会
	<p>9. 有効径 アンスラサイトの粒度加積曲線図において、累積通過質量百分率10%に対応する横軸の値を有効径 (mm) とする。</p>	立会
	<p>10. 均等係数 アンスラサイトの粒度加積曲線図において、累積通過質量百分率60%に対応する横軸の値を60%粒径 (mm) とし、次式によって均等係数を算出する。</p>	立会
	$\text{均等係数} = \frac{60\% \text{粒径 (mm)}}{\text{有効径 (mm)}}$	
	<p>11. 最大径及び最小径 アンスラサイトの粒度加積曲線図において、累積通過質量百分率99%及び1%に対応する横軸の値</p>	立会

項 目	試 験 方 法	摘 要																																																											
	<p>をそれぞれ最大径及び最小径 (mm) とする。</p> <p>判定</p> <p>寸法は、表4の規定及び購入者が定めた要求事項に適合すること。</p> <p style="text-align: center;">表3 ふるい分析表</p> <table border="1" data-bbox="301 503 750 1020"> <thead> <tr> <th>ふるい 目開き mm</th> <th>ふるいの 残留質量 (測定値)g</th> <th>累積通過 質量 g</th> <th>累積通過 質量百分率 %</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td><math>A_n</math></td><td><math>m_n</math></td><td><math>a_n</math></td><td><math>b_n</math></td></tr> <tr><td><math>A_{n-1}</math></td><td><math>m_{n-1}</math></td><td><math>a_{n-1}</math></td><td><math>b_{n-1}</math></td></tr> <tr><td><math>A_{n-2}</math></td><td><math>m_{n-2}</math></td><td><math>a_{n-2}</math></td><td><math>b_{n-2}</math></td></tr> <tr><td>·</td><td>·</td><td>·</td><td>·</td></tr> <tr><td><math>A_5</math></td><td><math>m_5</math></td><td><math>a_5</math></td><td><math>b_5</math></td></tr> <tr><td><math>A_4</math></td><td><math>m_4</math></td><td><math>a_4</math></td><td><math>b_4</math></td></tr> <tr><td><math>A_3</math></td><td><math>m_3</math></td><td><math>a_3</math></td><td><math>b_3</math></td></tr> <tr><td><math>A_2</math></td><td><math>m_2</math></td><td><math>a_2</math></td><td><math>b_2</math></td></tr> <tr><td><math>A_1</math></td><td><math>m_1</math></td><td><math>a_1</math></td><td><math>b_1</math></td></tr> <tr><td>受 皿</td><td><math>m_0</math></td><td><math>a_0</math></td><td><math>b_0</math></td></tr> <tr><td>合 計</td><td><math>m</math></td><td></td><td>100</td></tr> </tbody> </table> <p>注記 <math>A_1 \sim A_n</math> は、各ふるいのふるい目開き</p> <p style="text-align: center;">表4 寸法</p> <table border="1" data-bbox="301 1122 750 1316"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>寸 法 規 定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">寸 法</td> <td>有効径 mm</td> <td>0.7~1.5</td> </tr> <tr> <td>均等係数</td> <td>1.5以下</td> </tr> <tr> <td>最大径 mm</td> <td>2.8以下</td> </tr> <tr> <td>最小径 mm</td> <td>0.5以上</td> </tr> </tbody> </table>	ふるい 目開き mm	ふるいの 残留質量 (測定値)g	累積通過 質量 g	累積通過 質量百分率 %	$A_n$	$m_n$	$a_n$	$b_n$	$A_{n-1}$	$m_{n-1}$	$a_{n-1}$	$b_{n-1}$	$A_{n-2}$	$m_{n-2}$	$a_{n-2}$	$b_{n-2}$	·	·	·	·	$A_5$	$m_5$	$a_5$	$b_5$	$A_4$	$m_4$	$a_4$	$b_4$	$A_3$	$m_3$	$a_3$	$b_3$	$A_2$	$m_2$	$a_2$	$b_2$	$A_1$	$m_1$	$a_1$	$b_1$	受 皿	$m_0$	$a_0$	$b_0$	合 計	$m$		100	項 目	寸 法 規 定	寸 法	有効径 mm	0.7~1.5	均等係数	1.5以下	最大径 mm	2.8以下	最小径 mm	0.5以上	立会
ふるい 目開き mm	ふるいの 残留質量 (測定値)g	累積通過 質量 g	累積通過 質量百分率 %																																																										
$A_n$	$m_n$	$a_n$	$b_n$																																																										
$A_{n-1}$	$m_{n-1}$	$a_{n-1}$	$b_{n-1}$																																																										
$A_{n-2}$	$m_{n-2}$	$a_{n-2}$	$b_{n-2}$																																																										
·	·	·	·																																																										
$A_5$	$m_5$	$a_5$	$b_5$																																																										
$A_4$	$m_4$	$a_4$	$b_4$																																																										
$A_3$	$m_3$	$a_3$	$b_3$																																																										
$A_2$	$m_2$	$a_2$	$b_2$																																																										
$A_1$	$m_1$	$a_1$	$b_1$																																																										
受 皿	$m_0$	$a_0$	$b_0$																																																										
合 計	$m$		100																																																										
項 目	寸 法 規 定																																																												
寸 法	有効径 mm	0.7~1.5																																																											
	均等係数	1.5以下																																																											
	最大径 mm	2.8以下																																																											
	最小径 mm	0.5以上																																																											

項 目	試 験 方 法	摘 要
表 示	<p>表示は、次の事項を梱包用袋等に表示していることを調べる。なお、多量の場合には、ストックヤード等の納入場所に保管し、その適切な箇所に表示板等によって明示していることを調べる。</p> <p>a) 認証取得者名又はその略号  b) 品質確認実施工場名又はその略号  c) 具備している性能項目が識別できる表示  (認証登録番号又は規格番号)  d) 品質認証マーク  e) 水の記号  (用途が水道用であることを示す記号等)  f) アンスラサイトの種類  g) アンスラサイトの容積  h) アンスラサイトの寸法  i) 製造年月</p> <p>注 b) については、センター及び認証取得者が識別できればよい。</p> <p>判定  表示は、間違っているもの、抜けているものがないこと。</p>	立会

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p style="text-align: center;">付 則</p> <p>この試験方法は、平成26年8月1日から実施する。</p>	